

平成18年度イタリアンライグラス優良品種選定試験

柏原 裕

要 約

イタリアンライグラス 11 品種の特性を比較した。生育期間中の気温は、冬季は平年よりやや低く春季は平年並みであった。降水量は播種時に少なく、冬季は平年並み、春季はやや多かった。出穂始期は前年に比べ 1 番草の全品種で 2~12 日、2 番草の早生種で 5~8 日・中晩生種で 7~10 日早くなった。

極早生種 出穂始期は「さちあおば」が最も早かった。収量も「さちあおば」が多かった。倒伏は全てで見られなかった。

早生種 出穂始期は 1 番草で「タチマサリ」がやや早かった。合計収量は「ワセアオバ」が多かった。倒伏は全てで見られなかった。

中・晩生種 出穂始期は 1 番草で「ジャイアント」が早かった。合計収量は「ナガハヒカリ」が多かった。倒伏は全てで見られなかった。

緒 言

本県に適するイタリアンライグラス優良品種の選定を行う。

試験方法

1. 試験期間

昭和 57 年より継続、
比較品種は原則として 3 年間。

2. 圃場

奈良県総合技術センター
高原農業振興センター内
(標高 340 m、年平均気温
13.5℃)

3. 供試品種

表 1 のとおり
本県奨励品種 7 品種、
対照品種 4 品種

表 1. 供試品種 (*は試験実施時の奈良県奨励品種)

早晩性	品種名	倍数性	供試年次		
			H16	H17	H18
極早生	ミナミアオバ*	2 倍体	○	○	○
	ウヅキアオバ*	2 倍体	○	○	○
	メリット	2 倍体	○	○	○
	さちあおば	2 倍体	○	○	○
早生	ワセアオバ*	2 倍体	○	○	○
	タチマサリ*	2 倍体	○	○	○
	はるかぜ	2 倍体	○		
中・晩生	ワセユタカ	2 倍体		○	○
	ナガハヒカリ*	4 倍体	○	○	○
	ジャイアント*	4 倍体	○	○	○
	アキアオバ*	4 倍体	○	○	○
	ジャンボ	4 倍体	○	○	○

奈良県
試験圃場

4. 栽培方法

試験区：1区面積 6 m² (=3m×2m) 4反復乱塊配置

播種日：平成17年10月26日

播種量：2倍体品種 150g/a 4倍体品種 250g/a

播種法：条播 条間40cm

施肥量：堆肥 400 kg/a 苦土石灰 2 kg/a 溶リン 8 kg/a

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	(kg/a)
基肥	0.29	0.36	0.36	
追肥(各刈取毎)	0.70	—	0.90	

刈取期：出穂期刈を基準とした。

5. 調査項目

「近畿・中国地域 牧草・飼料作物 品種・系統選抜試験実施に関する申し合わせ(昭和57年3月)」および「牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂2版)」に準じて調査した。

結果および考察

1. 生育調査(発芽～出穂前)

本年度も昨年と同じ栽培地で実施した。従来の圃場に比べ勾配があることなどから、一部の区画で発育不良が見られたがそれ以外の区画ではいずれの品種も発芽および初期生育は良好で、耐寒性にも問題は無かった。

2. 生育調査(出穂～刈取)

具体的数字は表2-1、2-2のとおりである。

(概要)

a. 極早生群

出穂始期は前年より4～7日早かった。その中で「さちあおば」が早く「ミナミアオバ」「メリット」が遅かった。倒伏は全てに見られなかった。

b. 早生群

1番草の出穂始期は前年より2～3日早かった。その中で「ワセアオバ」がやや早かった。2番草の出穂始期は前年並みであった。倒伏は全てに見られなかった。

c. 中・晩生群

1番草の出穂始期は前年より0～11日早かった。中でも「ジャイアント」が早かった。2番草の出穂始期は前年より7～10日早かった。前年より全てで早かった。倒伏は全てで見られなかった。

表 2-1 生育調査 (1 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始期	刈取日	刈取時 出穂程度	刈取時 草丈	刈取時 倒伏程度
		月/日	月/日	1～5 無～極多	Cm	1～5 無～甚
極早生	ミナミアオバ	4/12	4/19	3	59	1
	ウヅキアオバ	4/11	4/18	3	61	1
	メリット	4/12	4/19	4	60	1
	さちあおば	4/9	4/18	4	61	1
早生	ワセアオバ	4/23	4/28	3	67	1
	タチマサリ	4/19	4/28	3	69	1
	ワセユタカ	4/23	4/28	3	67	1
中・晩生	ナガハヒカリ	5/1	5/9	4	105	1
	ジャイアント	4/27	5/9	4	102	1
	アキアオバ	5/1	5/10	3	90	1
	ジャンボ	5/1	5/10	3	87	1

表 2-2 生育調査 (2 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始期	刈取日	刈取時 出穂程度	刈取時 草丈	刈取時 倒伏程度
		月/日	月/日	1～5 無～極多	Cm	1～5 無～甚
早生	ワセアオバ	5/10	5/22	4	73	1
	タチマサリ	5/8	5/22	4	73	1
	ワセユタカ	5/8	5/22	4	78	1
中・晩生	ナガハヒカリ	5/20	6/5	4	83	1
	ジャイアント	5/20	6/5	4	79	1
	アキアオバ	5/20	6/5	4	77	1
	ジャンボ	5/22	6/7	4	81	1

3. 収量調査

具体的数字は表 3 のとおりである。

(概要)

a. 極早生群

乾物収量は前年より少なかった。その中で「さちあおば」(42.6kg/a)が最も多く、「メリット」(16.9kg/a)が最も少なかった。

b. 早生群

1 番草の乾物収量は前年並みであった。その中で「ワセアオバ」(31.5kg/a)が最も多く、「ワセユタカ」(25.1kg/a)が最も少なかった。2 番草は前年より少ない収量で、「ワセユタカ」(22.6kg/a)が最も多く、「ワセアオバ」(20.3kg/a)が最も少なかった。1 番草と 2 番草の収量の合計は「ワセアオバ」(51.8kg/a)が最も多く、「ワセユタカ」(47.7kg/a)が最も少なかった。

c. 中・晩生群

乾物収量は 1 番草で「ナガハヒカリ」(48.2kg/a)が最も多く、「アキアオバ」(37.1kg/a)が最も少なかった。2 番草では「ジャンボ」(33.9kg/a)が最も多く、「アキアオバ」(26.5kg/a)が最も少なかった。1 番草と 2 番草の収量の合計では「ジャイアント」(77.7kg/a)が最も多く、「アキアオバ」(63.6kg/a)が最も少なかった。

表 3 収量調査

早晩性	品種名	1 番草		2 番草		合計	
		生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a
極早生	ミナミアオバ	151	22.9			151	22.9
	ウヅキアオバ	142	25.8			142	25.8
	メリット	151	16.9			151	16.9
	さちあおば	166	42.6			166	42.6
早生	ワセアオバ	115	31.5	177	20.3	292	51.8
	タチマサリ	119	28.5	163	21.7	282	50.2
	ワセユタカ	104	25.1	173	22.6	277	47.7
中・晩生	ナガハヒカリ	238	48.2	208	26.7	446	74.9
	ジャイアント	241	45.8	181	31.9	422	77.7
	アキアオバ	203	37.1	187	26.5	390	63.6
	ジャンボ	180	37.2	212	33.9	392	71.1

参考文献

- 近畿中国地域試験研究打合せ会議草地飼料作部会：近畿・中国地域 牧草・飼料作物品種・系統選抜試験実施に関する申し合わせ;2~5(1982)
 農林水産技術会議事務局ほか：牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂 2 版);5~7(1990)
 竹中ら：奈良県畜産技術センター研究報告第 29 号;12~16(2002)
 竹中ら：奈良県畜産技術センター研究報告第 30 号;13~25(2003)
 竹中ら：奈良県畜産技術センター研究報告第 31 号;4~6(2004)
 榎堀：奈良県畜産技術センター研究報告第 32 号;13~16(2005)